

ユニバーサルデザインを考慮した自助具製品の設計開発

このテーマのキーワード	ユニバーサルデザイン、ジェネレーティブデザイン
関連するSDGs開発目標	 

研究内容(社会背景・目的、概要、期待される効果)

(社会背景・目的)

高齢者および障害を有する方々にとって日常生活において不便を感じている場合が多く、それらの課題解決が求められています。そのためには、ユニバーサルデザイン、ヒューマンインターフェースを考慮し、製品自身の改良はもちろんのこと、「ひと」と「製品」の間を取り持つ製品である「自助具」の必要性が高いと考えます。

目的は、「ひと」にとって、より使いやすい製品の設計、製品コストを留意して軽量かつ丈夫な製品としても考慮した設計開発を実現することにあります。

(概要)

- ・ユニバーサルデザインを考慮した設計提案
- ・剛性向上かつ軽量化を有する製品としての設計
- ・3Dプリンターを用いた試作およびユーザ評価
- ・大量生産を想定した型技術を考慮した製品設計

(期待される効果)

「使い手（ユーザ）」と作り手（メーカー）の視点を相互に考慮して、使いやすく、機能性の高い製品開発の展開が期待される効果として挙げられます。



図 感染対策のための自助具



図 身体支持具

想定される適用分野・用途・業界

- 文房具
- 家具
- 福祉機器 などの業界

産業界へのアピールポイント

- 従来の製品化をさらに高価値、高機能として推進するための手法として展開が可能です。

情報メカトロニクス学科 松本 宏行 教授

このテーマに関するお問合せ ものづくり研究情報センター
E-mail : mric@iot.ac.jp TEL : 048-564-3880